まちのできごと

4/29 牛乳無料配布（北オホーツク農業協同組合）
乳製品消費拡大呼びかけ

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に消費量が落ち込んでいる牛乳・乳製品の消費拡大を目指し、牛乳の無料配布が行われました。

地域交流センター前で北オホーツク農業協同組合の青年部員が、牛乳・乳製品をいつもより１つでも多く摂ってもらうように、町民や施設の利用者一人ひとりに「消費拡大のご協力をお願いします」と呼びかけながら、牛乳とスキムミルクを手渡していました。

↑牛乳の無料配布の様子

5/15 磯遊び（春季めだか塾）
磯の生き物み～つけた

雄武町子ども育成会主催の春季めだか塾～磯で遊ぼう～が開催され、多くの児童が参加をしました。浜へ移動する前に、雄武町子ども育成会会長四辻裕二氏から「獲っていいもの、悪いもの」や磯遊びでの注意事項などについて説明があり、児童たちは真剣にお話を聞いていました。浜へ移動すると、子どもたちはさっそく岩をひっくり返し、出てきたカニやヤドカリなどの磯の生き物たちに夢中になっていました。なかにはバケツがカニなどで一杯になっている児童もいて、「とても楽しかった」と笑顔で話してくれました。

5/21 こどもおたのしみ会（児童センター）
目指せ新記録！

この日、風の子児童センターでこどもおたのしみ会が行われました。おたのしみ会では、児童が、制限時間内に小さいスプーンでピンポン玉をより多く運ぶ「ひやひやピンポン」や※カプラブロックを井型に組んで積み上げた高さを競う「カプラ井型積み」などの種目にそれぞれ挑み、ベスト記録を目指して白熱した展開をみせていました。

カプラ井型積みでは、途中で崩れてしまう場面もありましたが、制限時間いっぱいまであきらめず、より高く積み上げられるよう工夫して挑戦していました。

↑カプラ井型積みに挑戦する児童

※カプラブロック：「ワンサイズの板」を積み重ねて色々なものを表現できるフランス生まれの木製ブロック

↓表彰状と楯を手にする石村さん（右）と門傳さん（左）

5/27 令和４年度春季善行表彰〈事故防止〉伝達
春季善行表彰を受賞

雄武町立共栄小学校児童会が、令和４年度春季善行表彰〈事故防止〉を受賞し、この日、共栄小学校で伝達式が行われ、豊田教育長から共栄小学校児童会長石村希依さんに表彰状が手渡されました。

共栄小学校では、平成17年８月から令和３年８月までの17年間にわたって児童が国道沿いに立ち、旗などを振って、交通安全を呼びかける街頭啓発活動を続けており、その活動が評価されたことによって受賞へとつながりました。

このたびの受賞を心からお祝い申し上げます。

町長コラム

雄武町長
石井友藏

町民の皆さんこんにちは。

日に日に新緑の季節を迎え、気分も晴れやかな時季となりました。

今年のゴールデンウィークは、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言ならびにまん延防止等重点措置の制限も３年ぶりに無く、町民の皆さんは、久しぶりに感染予防対策を講じながら思い思いに過ごし、楽しまれたのではないでしょうか。

しかし、ゴールデンウィークを過ぎると新型コロナウイルス感染症が徐々に感染拡大傾向にあり、未だに収束が見えない状況となっていることから、町民の皆さんには、今一度、感染予防対策の徹底をお願いいたします。

４月23日、斜里町の知床半島沖で14人が死亡、12人が行方不明となった小型観光船（KAZU I）沈没事故は、大変心が痛み、一瞬にして命を奪われ、将来の夢ある人生の無常を感じてなりません。

海上保安部などの懸命な捜索活動のなかで、行方不明者全員が一日でも早く見つかることを願うばかりです。

また、亡くなられたご家族に対し、心よりご冥福をお祈りいたします。

Activity Report

地域おこし協力隊　～活動レポート～

地域おこし協力隊
ＩＣＴ支援員
伊藤　章裕さん

小学校でのプログラミング教育の必修化により、その狙いである「プログラミング的思考の育成」という言葉が浸透してきました。文部科学省は、新学習指導要領の中で『プログラミング的思考』を次のように述べています。

－自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力－

子どもが『プログラミング的思考』を学ぶには、「家事のお手伝い」が一番ではないでしょうか。家事には『プログラミング的思考』の基礎を鍛える要素が溢れているので、『プログラミング的思考』を学ばせる方法として最適です。

ただし、お手伝いの方法に関しては注意が必要です。親が子どもにピッタリと張り付き、「次は○○して」と逐一指示を出しては意味がありません。

また、最初からすべての工程を教えてしまってもダメです。目的は「子どもが親に言われた通りに動けること」ではなく、「目的を達成するまでの過程を子ども自身に考えさせること」にあるからです。

例えば、洗濯のお手伝いをしてもらう場合、「汚れた服を洗濯機に入れて、洗剤と柔軟剤を入れたら、蓋をしめてスイッチを押してね」と、親が説明をしてしまうのはＮＧ。親は「洗濯してね」の一言だけで充分です。やらなければいけないことの工程は子ども自身に考えさせてください。

もし難しければ、あらかじめ工程をランダムに箇条書きで記し、どのような順番で行っていけば「洗濯する」というミッションをクリアできるかを、子どもに考えさせるのも有効です。

目的を明確にし、手順を論理的に考える『プログラミング的思考』の基礎を、家事を通して日常から学ばせてあげてみてはいかがでしょうか。

※地域おこし協力隊でこのコーナーを順番に担当しています。お楽しみに。